

“过+N”の用法について

—《史記》及び方言を中心に—

About the Use of "Guo + N": Focusing on *Shi Ji* (史記) and Dialect

蘇 秋韻

SU Qiuyun

内容提要: 本文对《史记》中大量存在的“过+N”的结构展开调查,发现此构造中的“N”可以统一解释成“后续事件发生的舞台”,在实际运用中,强调的侧重点不同时,又可以分别表现出“到达义”和“通过义”。此外,在方言词汇和现代汉语词汇中,表示“到达义”的用法仍有保留。

キーワード: “过” 《史記》 方言 到達 通過

目次

0. はじめに

1. 先行研究

2. 《史記》に見られる“过+N”

3. 方言辞書に見られる“过+N”

4. おわりに

0. はじめに

“过”<sup>1</sup>の意味は基本的に「通過」と解釈されるが、「到達」との解釈もある。その例としては、紀元前91年頃完成された中国最初の紀伝体の通史《史记》には、次のような2例がある。

(1)二十五年,孔子过宋,宋司马桓魋恶之,欲杀孔子,孔子微服去。(宋微子世家<sup>2</sup>)

二十五年に、孔子が宋を通った。宋の司馬の桓魋が、孔子を憎んで殺そうとした。

孔子は服装を変えて去った。(史記上 405<sup>3</sup>)

<sup>1</sup> 本稿には繁体字の“過”と簡体字の“过”ともに使用するが、それは言語資料の原文に忠実に記録するためであって、他の意味はない。

<sup>2</sup> 本稿の《史记》の原文は <https://www.shicimingju.com/book/shiji.html> による。

<sup>3</sup> 本稿の訳文は平凡社の野口定男・近藤光雄・頼惟勤・吉田光邦の訳本により、詳細は言語資料を参

(2)扁鵲过齐，齐桓侯客之。(扁鵲仓公列传)

扁鵲が齊へ行った。齊の桓侯（桓公午か）は彼を賓客として待遇した。(史記下 113)

例(1)“孔子过宋”と例(2)“扁鵲过齐”の構造はいずれも“P(人)+过+N(場所名詞)”である。日本語への翻訳では、前者は「通過」義を表す「通った」に、後者は「到達」義を表す「行った」と表現されている。また、現代中国語の白話文の解釈を見てみると、前者は「通過」義の“孔子经过宋国<sup>1</sup>”のように解釈されているのに対して、後者は「到達」義の“扁鵲到齐国”に解釈されている。つまり、古代中国語の“P(人)+过+N(場所名詞)”を日本語、もしくは中国語の白話文に翻訳・説明する場合、二つの異なる訳し方がある。主要な辞書では、例えば《汉语大词典(第十卷)》(1992: 954)では、“过”の意味を27類に分け、その中に「通過」と「到達」と二つの解釈を挙げる。ところが、《现代汉语词典(第7版)》(2016:501)では、動詞“过”の意味を五つに分類し、「到達」の語義は見当たらない。本稿は専ら中国前漢の武帝の時代に司馬遷によって編纂された中国の歴史書である《史记》を言語資料に、“过”の捉え方を明らかにしたいと考える。

## 1. 先行研究

これまでの動詞“过”の研究では、「通過」義、「到達」義が同時に存在することを認めるのと、「通過」義のみを認めるのとの大別される。ここではこの2類を分けて整理してみる。

### 1.1. 「通過」義と「到達」義

《汉语大词典(第十卷)》(1992: 954)では、“过”の意味を27類に分け、最初に挙げられる意味は“经过(通過)”である。

#### ① 经过。

《论语・宪问》：“子擊磬於衛，有荷蕢而過孔氏門者。”

唐杜甫《送蔡希魯都尉》诗：“身輕一鳥過，槍急萬人呼。”

清汤春生《夏闺晚景琐说》：“頃之月色由廊而度畫欄，過閭階，漸至窗下。”

また、その第14番の解釈は“到达；前往（到達；(…へ)行く/向かう/赴く）”である。

#### ② 到达；前往。

汉张仲景《金匱要略・肺痿肺癰咳嗽上气病》：“熱之所過，血爲之凝滯。”

唐韩愈《过襄城》诗：“郟城辭罷過襄城，潁水嵩山刮眼明。”

明冯梦龙《梦磊记・翁婿叙情》：“甥女見勢頭不好，一時間不知逃過那裏去了。”

沈从文《泥涂》：“秃头七叔正在运东西过花园新找的那住处去。”

照する。「史記上 405」は訳本『史記』上巻の405頁を示す。

<sup>4</sup> 本稿の《史记》の白話文解釈は <https://www.gushimi.org/24shi/shiji/>による。

上記のように《汉语大词典》では“过”の「通過」義、「到達」義が同時に挙げられている。また、《汉语大词典》の「到達」義に収録された例文の出典を調べてみると、最も古いのは後漢(25年-220年)末に張仲景(約150~154年—約215~219年)によって編纂された医学書籍の《金匱要略》である。本稿の研究対象である《史记》(前97年-前91年)は前漢(前206年-8年)に既に作成された書籍であるゆえ、両者の間には約240年もの長い年月が隔たっている。よって、《金匱要略》が完成された後漢には「到達」義の“过”がすでに現れていたということが言えよう。《史记》が完成された前漢には“过”の「到達」義が存在するかどうかについては本稿の第2節で分析する。

## 1.2. 「通過」義のみ

《現代汉语词典(第7版)》(2016:501)では、動詞“过”の意味を五つに分類している。次のように、「到達」の意味は挙げておらず、「通過」義のみ挙げられている。

- 1) 从一个地点或时间移到另一个地点或时间; 经过某个空间或时间。  
ある場所若しくは時点からほかの場所・時点に移行すること; ある場所、時間を経過すること。(筆者訳)  
(例: 过桥/过河/过年/过节 [橋を渡る/川を渡る/年が明ける/祝日を過ごす])
- 2) 从甲方转移到乙方。  
甲から乙へ移す(筆者訳)  
(例: 过户/过账 [名義を書き換える/転記する])
- 3) 使经过(某种处理)  
ある処理を通す/経る(筆者訳)  
(例: 过筛子/过滤 [ふるいにかける/濾過する])
- 4) 用眼睛看或用脑子回忆  
目を通す、あるいは頭で思い返す(筆者訳)  
(例: 过目/把昨天的事在脑子里过了一遍。[目を通す/昨日のことを頭の中で思い返してみた。])
- 5) 超过(某个范围和限度)  
範囲や限度を超える(筆者訳)  
(例: 过分/过期/树长得过了房。[やりすぎる/賞味期限が切れる/木が大きくなって家よりも高い])

ほかにも、次のように、現代中国語を言語資料とする研究では、“过”における「到達」の意味について言及していない。例えば、呂叔湘(1999:245)では、動詞“过”の意味を「(場所)を通り過ぎる」「(時間が)過ぎる、(時間)を過ごす」「(ある範囲や限度)を超過する」「(ある処理)を経る、施す」の四つに分けている。また、杉村博文(2000:58)では、動詞“过”には、「甲:ある地点を通過する」と「乙:ある地点から別の地点へ移動する」の意味があると主張し、これと同時に、杉村博文(2000:58)には「“过”の二つの意味

において乙義は劣勢であり、甲乙両義を一義(「ある地点を通過する」)に収斂させることができる」との指摘も見受けられる。ほかにも、高橋弥守彦(2005:92)、丸尾誠(2014:105)にも位置移動の動詞“过”の基本義を「過ぎる」、「通過」としている。

以上の研究資料を調べた結果、“过”の「通過」義と「到達」義を併記しているのは《汉语大词典》のみで、《现代汉语词典(第7版)》をはじめ、多くの研究は「通過」義に言及するに止まる。

## 2. 《史記》に見られる“过+N”

本稿では《史記》の語例を集め分析し、“过+N”の基本義が「到達」であると主張したい。よって、客語の場所名詞は「その後起きるイベントの舞台」となる。具体的に言えば、

I. “过+N”を「Nに着く(到達)」に訳された場合、Nはその後起きる何等かの出来事が行われる場所である。

II. “过+N”を「Nを通る(经过)」に訳された場合、Nはその後旅立つ起点である。

### 2.1. 「到達」に訳された“过+N”

次の例文(1)から(9)までの文は「到達」を表す“过+N”の典型的な例である。

(1)二十五年，孔子过宋，宋司马桓魋恶之，欲杀孔子，孔子微服去。(宋微子世家)

二十五年に、孔子が宋を通った。宋の司馬の桓魋が、孔子を憎んで殺そうとした。孔子は服装を変えて去った。(史記上 405)

(2)扁鹊过齐，齐桓侯客之。(扁鹊仓公列传)

扁鵲が齊へ行った。齊の桓侯(桓公午か)は彼を賓客として待遇した。(史記下 113)

(3)十六年，楚使过宋，宋有前仇，执楚使。(宋微子世家)

十六年に、楚の使者が宋を通った。宋は、以前に楚に遺恨をいっていたので、その使者を捕えた。(史記上 404)

(4)申公者，鲁人也。高祖过鲁，申公以弟子从师入见高祖于鲁南宫。(儒林列传)

申公は魯の人である。高祖が魯を通過したとき、申公は齊の浮丘伯の弟子としてその師に従い、魯の南宮で高祖に謁見した。(史記下 259)

(5)初，桓公亡时，过郟，郟无礼，故伐之。(齐太公世家)

かつて、桓公の亡命中に、郟を過ぎたことがあるが、郟が礼遇しなかったので、これを伐ったのである。(史記上 348)

(6)乃与屈完盟而去。过陈，陈袁涛涂诈齐，令出东方，觉。(齐太公世家)

そこで、桓公は屈完と盟約して去り、陳を通過した。陳の袁濤塗が齊軍をいつわって、東方にすませようとしたが発覚した。(史記上 349)

(7)扁鹊名闻天下。过邯鄲，闻贵妇人，即为带下医；过雒阳，闻周人爱老人，即为耳目痹医；来入咸阳，闻秦人爱小兒，即为小兒医；随俗为变。(扁鹊仓公列传)

扁鵲の名声は天下に聞こえた。邯鄲に行くと、その地では婦人を貴ぶと聞いて、婦

人病の医者になった。雒陽に行くと、周の人は老人を敬愛すると聞いて、耳・目・冷痺の医者になった。(史記上 114)

- (8)始皇还, 过彭城, 斋戒祷祠, 欲出周鼎泗水。使千人没水求之, 弗得。(秦始皇本纪)  
始皇は帰途彭城(江蘇省)にたちより、齋戒して禱り、周が亡んだときに沈んだ九鼎を泗水から引きあげようとして、千人もの人に命じて水にくぐって求めさせたが、見つけることができなかった。(史記上 78)

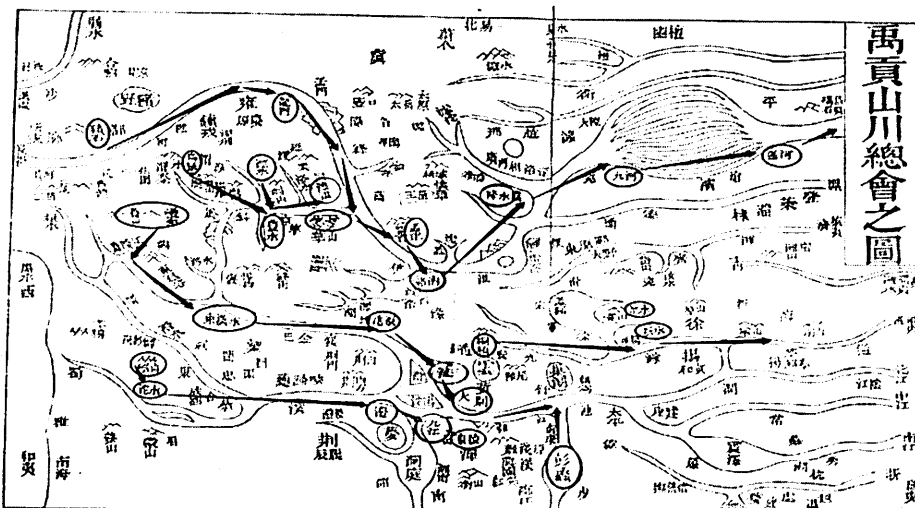
例(1)'の日本語訳は「孔子が宋を通った」であるが、既に「宋を通った」としたら、「服装を変えて去る」こともなかろう。実際の場合、物語の流れはこうである。二十五年に孔子が宋に行った。そこで孔子を憎んで殺そうとした桓魋と出会った。その後、孔子は服装を変えて去ったという事件である。言い換えれば、「孔子过宋国」は「到達」の意味にしか解釈できない。

上記の例(2)'から(8)までの例も同じく、“过齐、过宋、过鲁、过郟、过陈、过宋、过邯鄲、过雒陽、过彭城”に現れる“过”は「行った、通った、通過した、過ぎた、たちより」に訳されたが、「到達」に解釈するほうが妥当かと思う。なぜなら、“齐、宋、鲁、郟、陈、宋、邯鄲、雒陽、彭城”のNはすべてその後出来事が行われる場所である。この“过+N”は、「Nに着いて、そこで…」に相当する。

それに加えて、《史記》には、「到達」を表す“过”の後ろに来るNはしばしば認識度の高い場所であり、国名(例 3.4.5.6)、行政地名(例 7.8)が多く見られる。

《史記》の《夏本紀》には、「大禹治水」という内容が記載されている。その例を「表一」にまとめた。本稿は例文に出た地名を考察し、それを宋の時代に完成された《禹貢山川總會之圖》(図一)と照合してみる。

図一《禹貢山川總會之圖》(川を渡渉するときの順番を矢印と○で標記。)



表一

番号	《史記》原文	《史記》白話文	出所
1	汶山之阳至衡山， <u>过九江</u> ，至于敷浅原。	一条从汶山的南面开到衡山， <u>越过九江</u> ，最后到达敷浅原山。	《夏本纪》
2	道河积石，至于龙门，南至华阴，东至砥柱，又东至于盟津，东 <u>过雒水</u> ，至于大邳，北 <u>过降水</u> ，至于大陆，北播为九河，同为逆河，入于海。	疏导黄河，从积石山开始，到龙门山，向南到华阴，然后东折经过砥柱山，继续向东到孟津，再向东 <u>经过洛水入河口</u> ，直到大邳；转而向北 <u>经过降水</u> ，到大陆泽，再向北分为九条河，这九条河到下游又汇合为一条，叫做逆河，最后流入大海。	
3	嶧冢道潏，东流为汉，又东为苍浪之水， <u>过三澨</u> ，入于大别，南入于江，东汇泽为彭蠡，东为北江，入于海。	从嶧冢山开始疏导潏水，向东流就是汉水，再向东流就是苍浪水， <u>经过三澨（shì）水</u> ，到大别山，南折注入长江，再向东与彭蠡泽之水会合，继续向东就是北江，流入大海。	
4	汶山道江，东别为沱，又东至于醴， <u>过九江</u> ，至于东陵，东迤北会于汇，东为中江，入于海。	从汶山开始疏导长江，向东分出支流就是沱水，再往东到达醴水， <u>经过九江</u> ，到达东陵，向东斜行北流，与彭蠡泽之水会合，继续向东就是中江，最后流入大海。	
5	道渭自鸟鼠同穴，东会于泂，又东北至于泾，东 <u>过漆、沮</u> ，入于河。	疏导渭水，从鸟鼠同穴山开始，往东与泂水会合，又向东与泾水会合，再往东 <u>经过漆水、沮水</u> ，流入黄河。	

《夏本紀》に記載された地名を○で《禹貢山川總會之圖》にマークした。表一の4番には、「过九江，至于东陵」とあるが、「九江」と「东陵」との位置関係を調べると、その結果は次のとおりである。

九江郡：秦置，治所在寿昌县（今安徽寿县）。辖境相当今安徽、河南淮河以南，湖北黄冈以东及江西全省。以境内有九江得名。<sup>5</sup>

东陵：古地域名。在今安徽贵池、青阳等市县间以九华山为主体的沿江低山丘陵地带。

<sup>5</sup> <http://www.guoxuedashi.com/diming/792jgxz/>による。

《禹贡》导江：“过九江，至于东陵。”指此。”

当時では“九江”は広く知られる大きな行政地名であり、“东陵”がその中に位置する。すなわち、“过九江，至于东陵”は、“过东京，至于池袋”に例えて説明することができる。よって、“过九江”は“九江”に到達するという意味である。

ほかにも、《史记》には以下のような例文も見られる。次の二つの例は、後に出来事は起きていないが、みずからの行く先を述べたり(9)、国の国境を定義したり(10)する典型的な文章である。ここでの“过”を「すぎる」と訳すより、「到達する」を意味する「行く」か「至る」に翻訳してよいであろう。

(9)余尝西至空桐，北过涿鹿，东渐於海，南浮江淮矣，至长老皆各往往称黄帝、尧、舜之处，风教固殊焉，总之不离古文者近是。(五帝本纪)<sup>7</sup>

わたしは、かつて西のかた空桐山（甘肅省。黄帝が道を広成子に問うたところと伝えられる）にいたり、北のかた涿鹿をすぎ、東のかた海にいたり、南のかた江淮に舟で浮かんだことがあるが、その地の長老が往禽にして黄帝・堯・舜を称揚するところにいってみると、風俗・教化が他の地方とちがって非常にすぐれていた。（史記上 16）

(10)六合之内，皇帝之土。西涉流沙，南尽北户。东有东海，北过大夏。人迹所至，无不臣者。（秦始皇本纪）<sup>8</sup>

いまや六合の内すべて皇帝の地にして、西は流沙（中国の西北方の砂漠）をこえ、南は北戸をつくし、東は東海をたもち、北は大夏（蒙古の西北の国名）をすぎ、人跡のいたるところ臣ならざるはなし。（史記上 78）

## 2.2. 「通過」に訳された“过+N”

以下に見る例で、“过”はいずれも「通って、すぎて」などに翻訳されている。例(11)では“欲过沛，收家室而西”という出来事を再現してみると次のとおりである。敗戦後、漢王やその一行は沛というところに戻った。そこで家族を收容し、それから沛を離れ西のほうに移動した。となると、「沛」は素通りする場所ではなく、「家族を收容する」場所であり、それから逃亡する「起点」でもある。“过+N”の多くは、現代中国語では“经过、越过、绕过”などに訳されるが、《史记》の時代ではやはり「到達」の意味を有している。このような例を日本語に訳すと「Nに着いて、そこから旅立つ…」に訳してよいであろう。

(11)楚军大乱，坏散，而汉王乃得与数十骑遁去，欲过沛，收家室而西；楚亦使人追之

<sup>6</sup> <http://www.guoxuedashi.com/diming/14554yqrm/>による。

<sup>7</sup> 白話文の解釈は「我曾经西到空桐，北到涿鹿，东往海滨，南渡江淮，所到之处，老人们往往所说黄帝、尧、舜的事迹，风俗教化本来也有所不同。」である。

<sup>8</sup> 白話文の解釈は「天地四方，皇帝疆土，西边流沙，南到北户，东包东海，北过大夏。足迹所至，无不臣服」である。

沛，取汉王家：家皆亡，不与汉王相见。（项羽本纪）

…、楚軍は大いに乱れて壊散した。そのたに、漢王はやっと数十騎とともに逃げることができた。そして、沛を通過して家族を収容して西にむかおうとしたが、楚も人を派して漢王を沛に追跡してその家族をとらえようとしたので、家族はみな逃げて、漢王とあうことができなかった。（史記上 113）

(12)楚起於彭城，常乘胜逐北，与汉战荥阳南京、索间，汉败楚，楚以故不能过荥阳而西。（项羽本纪）

楚は彭城で勝利をおさめてから、ずっと勝ちに乗じて敗走する漢軍を追ってすみ、ふたたび結集した漢軍と、荥陽の南の京・索の間で戦った。こんどは漢が楚をやぶったので、楚は荥陽をすぎて西にむかうことはできなかった。（史記上 113）

例(13)の“过而西”と“过+N”と構造は異なるが、言語環境によって場所が限定しやすいため、「沛公の一行は一度宛にきて、その後まだ離れた」という意味になる。

(13)略南阳郡，南阳守竒走，保城守宛。沛公引兵过而西。张良谏曰：……（高祖本纪）

…南陽郡を略定した。南陽郡守の竒は敗走して宛（河南省）にいたり、そこを城守した。沛公は兵をひきいて宛を通過し、西にむかった。張良が練めて、…（史記上 125）

### 3. 方言辞書に見られる“过+N”

方言にもしばしば“过+N”の使い方が見られる。例えば“过房”、“过堂”、“过门”、“过厝”、“过番”などは「到達」としか解釈できない。ここの場所名詞“房”、“堂”、“门”、“厝”、“番”は通り過ぎる空間と解釈されると、意味不明になる。つまり、“N”はも「その後起きるイベントの舞台」と解釈されるのである。この節では、視点に関する分析もつけ加え、《福州方言词典（修订版）》、《福州方言词典》、《建甌方言词典》、《厦門方言词典》、《長沙方言词典》から、「到達」を表す“过”の語例を「表二」のようにまとめた。

表二「方言辞書における到達義の“过+N”」

資料名	語彙	意味	例文	Nの示す視点
《福州方言词典（修订版）》 (pp.122-123)	①过	(动) 传染	我者病都是乞伊过其（我这病都是被他传染的）。	
	②过房	转房，过继	伊掬蜀隻团～乞伊兄嫂（他拿一个儿子过继给他嫂嫂）。	(起点) 着点



《福州方言 詞典》 (pp.135- 137)	①過	從甲方轉移到乙方,傳染,更換	~癩/天花會~儂/ ~運/~主	
	②過房	=【過繼】)把自己的兒子給沒有兒子的兄弟、堂兄弟或親戚做兒子,沒有兒子的人以兄弟、堂兄弟或親戚的兒子為自己的兒子		(起点) 着点
	③過堂	舊時訴訟當事人到公堂上受審問		着点
	④過番	舊時指漂洋過海到海外(主要指東南亞一帶)謀生		着点
	⑤過門	女子(多指訂過婚的)出嫁到男家		(起点) 着点
《建甌方言 詞典》 (pp.65-66)	①過	a. 從一個地點或時間移到另一個地點或時間 b. 轉移	a. ~門 b. ~賬/錢~戶	
	②過厝	串門兒	嘍隻阿娘盡會~ (個女人很愛串門兒)	着点
	③過門	女兒出嫁	佢阿娘团明朝~ (他女兒明天出嫁)	起点 <sup>9</sup>
	④過堂	舊時原、被告到公堂聽審叫過堂		着点
《廈門方言 詞典》 (pp.93-94)	①過	a. 從甲方轉移到乙方 b. 傳染(疾病)	a. ~戶/~錄/~盤 b. 感冒會~人	
	②過番	舊指到國外去 <small>多指到南洋去</small>		着点
	③過門	出嫁入夫家	伊已經~咯	(起点) 着点
	④過房	過繼,把自己的兒子給沒有兒子的兄弟、堂兄弟或親戚做兒子;或沒有兒子的人以兄弟、堂兄弟或親戚的兒子為自己的兒子		(起点) 着点
《長沙方言 詞典》 (pp.67)	①過	傳染	咯種病是不~人的	
	②過堂	指舊時訴訟當事人到公堂上接受審問		着点

<sup>9</sup> 《建甌方言詞典》における“過門”は“女兒出嫁”の解釈しか見られない。そうであれば、視点は起点に置くことになった。本稿は「(起点)着点」型はふさわしいと思う。

各方言辞書の解釈に基づき、Nの示す視点の違いによって、方言に見られる“过+N”の使い方は2つに分類できる。一つは着点移動を表す用法(例えば“过堂”、“过厝”、“过番”)であり、もう一つは着点移動と同時に、起点を示す用法(“过房”、“过门”)である。

着点移動を表す典型例である“过堂”は《福州方言词典(1998)》、《建甌方言词典》、《長沙方言词典》に収録されている。四つの辞書には、どれも「訴訟当事者が公堂で審問を受ける」というふうに説明している。つまり、“过堂”の“堂”は「公堂」のことで、訴訟の当事者が到着する場所である。どこから来るのかについては関心がなく、着点に焦点を置く表現である。そして、「公堂」はその後「審問を受ける」という出来事が起きる舞台でもある。

また、着点移動を説明する同時に、起点を暗示できる表現として、“过房”、“过门”という例がある。この場合、“房”や“門”は嫁ぐ家のシンボルとして、移動のゴールである同時に、移動の起点を示すこともできる。女性はその家に嫁いでから、ここで生活するということを表している。

方言に用いられる“过”はいずれも着点移動をあらわして、客語の場所名詞は到着する場所である同時に、その後の出来事が行われる場所でもある。この点は二千年前にすでに完成された《史记》と同じである。

現代中国語では、“过”の「到達」の意味合いが徐々に薄れて、「通過」の用法がメインになったようで、“过桥”などでは「到達」に解釈することが困難になる。しかしながら、単語や連語のレベルでは、「到達」の意味にしか解釈できない例もある。

①过戸(名義を変更する)

②过账(伝票を転記する)

方言の用法が一部そのまま“普通话”に入り、“过戸”、“过账”の“过”を「通過する」に解釈することが困難である。

#### 4. おわりに

本稿は《史记》のに用いられる“过+N”語例を集め分析し、“过+N”の基本義が「到達」であると提案した。客語の場所名詞は「その後起きるイベントの舞台」であり、具体的には「出来事が起きる場所」、「旅立つ起点」という二つの場合がある。現代中国語には、“过桥”のような表現はそのほとんどが「通過」の意味を表しているが、方言辞書の記述を調べた結果、方言に用いられる“过+N”はいずれも「到達」の出来事を表して、”过戸”、“过账”など一部の言い方はそのまま“普通话”になっているのである。

付録一「方言辞書における“过+N”」

資料名	語彙	意味	例文	Nの示す視点
《福州方言词典(修订版)》 李如龙·梁玉璋·邹光椿·陈泽平编 福建人民出版社 1995年 (pp.122-123)	①过	(动) 传染	我者病都是乞伊过其(我这病都是被他传染的)。	
	②过癩	把麻疯病传染给别人。		移動の主体
	③过手	交付	钱蜀掏过手就使光去(钱一拿到就花光了)!	着点
	④过房	转房, 过继	伊掏蜀隻团~乞伊兄嫂(他拿一个儿子过继给他嫂嫂)。	(起点) 着点
	⑤过主	换了主人	这落厝~去了(这间房子换了主人了)。	(起点) 着点
	⑥过位	a. 移动身子, 挪地方。 b. 离家外出。	b. 依懒𩇛(𩇛fei4) 爱~(人懒了不爱离家外出)。	a. 通過義 b. 到達義 (起点) 着点
《福州方言词典》 李榮主編 馮愛珍編纂 江蘇教育出版社 1998年 (pp.135-137)	⑥過	從甲方轉移到乙方, 傳染, 更換	~癩/天花會~儂/~運/~主	
	⑦過癩	把麻風病傳染給別人。迷信認為得了麻風病必須傳染給別人, 自己的病才能好, 這種傳染的行為和過程叫過癩		移動の主体
	⑧過世	婉辭, 死亡		(起点) 着点
	⑨過主	更換主人	這厝 <sub>厝</sub> 子~了(屋子更換主人了)	(起点) 着点
	⑩過房	=【過繼】)把自己的兒子給沒有兒子的兄弟、堂兄弟或親戚做兒子, 沒有兒子的人以兄弟、堂兄弟或親戚的兒子為自己的兒子		(起点) 着点
	⑪過堂	舊時訴訟當事人到公堂上受審問		着点
	⑫過運	改變運氣, 轉變命運	汝着 <sub>着</sub> 改一隻名~囉	(起点) 着点
⑬過番	舊時指漂洋過海到海外(主要指東南亞一帶)謀生		着点	

	⑭過門	女子(多指訂過婚的)出嫁到男家		(起點) 着點
	⑮過位	出遠門,離開家到很遠的地方去		着點
《建甌方言詞典》 李榮主編 李如龍·潘渭水編纂 江蘇教育出版社 1998年 (pp.65-66)	⑤過	a.從一個地點或時間移到另一個地點或時間 b.轉移	a.~門 b.~賬/錢~戶	
	⑥過繼	過房,把自己的兒子給其他親戚做兒子	我的老二~啲我的弟仔(我的二兒子過房給我弟弟)	今回範圍外 (動詞)
	⑦過厝	串門兒	嚟隻阿娘盡會~(個女人很愛串門兒)	着點
	⑧過手	經手	嚟錢我未曾~(這錢我沒有經手過)	通過義/ (起點)着點
	⑨過定	訂婚時男家向女家送聘禮		移動の 主体
	⑩過門	女兒出嫁	佢阿娘团明朝~(他女兒明天出嫁)	起點
	⑪過堂	舊時原、被告到公堂聽審叫過堂		着點
《廈門方言詞典》 李榮主編 周長楫編纂 江蘇教育出版社 1993年 (pp.93-94)	⑤過	a.從甲方轉移到乙方 b.傳染(疾病)	a.~戶/~錄/~盤 b.感冒會~人	
	⑥過枝	a.一種嫁接法 b.領養別人的孩子為自己的 孩子		移動の 主体
	⑦過手	得手	我若會~,着要一定好好 感謝你	着點
	⑧過番	舊指到國外去 <small>多指到南洋去</small>		着點
	⑨過門	出嫁入夫家	伊已經~咯	着點
	⑩過光	在器物的表面磨擦,使光滑 精緻	玻璃霧霧 <small>霧濛濛的</small> ,用布擦擦 ~咧	今回範圍外 (形容詞 狀態 變化)
	⑪過房	過繼,把自己的兒子給沒有兒子的兄弟、堂兄弟或親戚做兒子;或沒有兒子的人以兄弟、堂兄弟或親戚的兒子為自己的兒子		(起點) 着點
	⑫過盤	將貨物轉手賣他人,也指把一物從某對象過手到另一對象手中	伊將即批袖仔~互我	今回範圍外 (動詞)

	⑬過（着）	=透着 傳染	我的感冒是互伊~/~人	
《長沙方言詞典》 李榮主編 鮑厚星・ 崔振華・ 沈若雲・ 伍雲姬編纂 江蘇教育出版社 1993年 (pp.67)	③過	傳染	咯種病是不~人的	
	④過禮	結婚前夕, 女方把嫁妝送到男方家裏去, 謂之過禮		移動の主体
	⑤過話	第三者把別人的話傳給當事人(多指挑撥離間)	咯隻人喜歡~, 討厭	移動の主体
	⑥過堂	指舊時訴訟當事人到公堂上接受審問		着点

### 言語資料

《史记》原文: <https://www.shicimiNgju.com/book/shiji.html>

《史记》の白話文解釈: <https://www.gushimi.org/24shi/shiji/>

野口定男・近藤光雄・頼惟勤・吉田光邦訳 1968 『史記 上』平凡社

野口定男訳 1969 『史記 中』平凡社

野口定男訳 1971 『史記 下』平凡社

### 参考文献

#### 日本語

相原茂 2015 『中国語類義語辞典』東京:朝日出版社

荒川清秀 2003 『一步すすんだ中国語文法』東京:大修館書店

今井むつみ 2016 『学びとは何か——〈探求人〉になるために』東京:岩波書店 18-21

王志英 2004 「「过」について」『日本中国語学会第54回大会予稿集』90-94

大島吉郎 2003 「中国語における Aspect の概念をめぐる——助詞“过”を中心に」『語学教育フォーラム』第8号 大東文化大学語学教育研究所 79-92

大堀壽夫 2002 『認知言語学』東京:東京大学出版会 18-21

香坂順一 1983 『中国語の単語の話——語彙の世界』東京:光生館

白川 静 1984 『字統』東京:平凡社

杉村博文 1992 「現代中国語における「むこう」と「こちら」の諸相」『日本語と中国語の対照研究論文集』153-180

杉村博文 2000 「方向補語“过”の意味」『中国語』No.480 58-60

杉村博文 2011 「対立空間転位の諸相——「方向補語」再考」『現代中国語研究』第13期 15-30

杉村博文 2012a 「中国語における姿勢形成と空間移動——終端プロファイルによる系列

- 動作の視点より』『日中理論言語学の新展望 2 意味と構文』東京:くろしお出版 125-143
- 瀬戸賢一 1995a 『空間のレトリック』東京:海鳴社
- 瀬戸賢一 1995b 『メタファー思考—意味と認識のしくみ』東京:講談社
- 蘇秋韵 2018a 「補語“过”と「完結義」の関係について」『外国語学会誌』第 47 号大東文化大学外国語学部 26-35
- 蘇秋韵 2018b 「「位置変化」と「方向変化」に関する“过”について」『中国言語文化学研究』第 7 号 74-87
- 蘇秋韵 2019a 「現代中国語における“过”について——“V+过+来/去”と“V+来/去”の対照から」『中国言語文化学研究』第 8 号 147-155
- 蘇秋韵 2019b 「非物理的空間における“V+过来/过去”の非対称性について」『研究会報告』第 44 号 134-142
- 蘇秋韵 2019c 「動詞“过”の基本義と語義分析について」『外国語学研究』第 20 号 33-38
- 高橋弥守彦 2005 「“过”+空間名詞」と『動詞+“过”+空間名詞』における“过”と空間名詞との関係について」『香坂順一先生追悼記念論文集』、東京:光生館 88-117
- 辻 幸夫 2013 『新編認知言語学キーワード事典』東京:研究社
- 朴鐘漢著 遠藤雅裕訳 2000 「認知文法による現代中国語多義語の研究」、『中央大学論集』第 21 号、中央大学 22-30
- 朴貞姫 崔健 2004 「空間経路表現の日中対照」『日中対照研究論集』第 6 号 108-119
- 北京商務印書館 小学館 2016 『中日辞典(第三版)』東京:小学館
- 松本 曜 2017 「移動表現の類型に関する課題」『移動表現の類型論』東京:くろしお出版 1-24
- 松本 曜 2017 「移動表現の性質とその類型性」『移動表現の類型論』東京:くろしお出版 337-35
- 丸尾 誠 2005 『現代中国語の空間移動表現に関する研究』東京:白帝社
- 丸尾 誠 2006 「“过”の表す移動義について」『現代中国語研究』第 8 期 40-51
- 丸尾 誠 2011 「中国語の方向補語について——日本人学習者にとって分かりにくい点」『言語文化論集』32(2) 77-89
- 丸尾 誠 2014 『現代中国語方向補語の研究』東京:白帝社 105-123

## 中国語

- 尹玉 1957 <趋向补语的起源>《中国语文》第 63 期 66-68
- 朱德熙 1982 《语法讲义》商务印书馆 57-58
- 李临定 1991 《现代汉语动词》140-150
- 罗竹凤主编 1992 《汉语大词典(第十卷)》汉语大词典出版社 954-955

- 李榮主編 1993 《廈門方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編 1993 《長沙方言詞典》江蘇教育出版社
- 李如龍·梁玉璋·鄒光椿·陳澤平編 1995 《福州方言詞典（修訂版）》福建人民出版社
- 李榮主編 1998 《福州方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編 1998 《建甌方言詞典》江蘇教育出版社
- 劉月華主編 1998 《趨向補語通釋》北京語言文化大學出版社
- 呂叔湘主編 1999 《現代漢語八百詞（增訂本）》商務印書館
- 齊滬揚 1999 <與方向動詞研究相關的若干問題>《現代中國語研究論集》中國書店 373-388
- 謝白羽 齊滬揚 2000 <複合趨向補語“過來”和“過去”的語義分析>《面臨新世紀挑戰的現代漢語語法研究》山東教育出版社 413-421
- 孫德金 2002 《漢語語法教程》北京語言文化大學出版社
- 郭銳 2002 《現代漢語詞類研究》、商務印書館
- 吳云 2004 <“過”引伸用法的認知分析>《汕頭大學學報：人文社會科學版》第 20 卷第三期 26-30
- 王國栓 2005 《趨向問題研究》北京：華夏出版社 81,186-197
- 高橋彌守彥 2007 <關於“過”與空間詞的關係>《第八屆國際漢語教學討論會論文選》高等教育出版社
- 梁銀峰 吳福祥 貝羅貝 2008 <漢語趨向補語的產生與演變>《歷史語言學研究》商務印書館 164-181
- 馬雲霞 2008 《漢語路徑動詞的演變與位移事件的表達》中央民族大學出版社
- 曾小紅 2008 《語多個體動詞的多角度研究——以“過+賓語”結構為例》廈門大學出版社
- 曾傳祿 2009 <“過來”“過去”的用法及其認知解釋>《西華師範大學學報》（哲學社會科學版）第 2 期
- 周紅 鮑瑩玲 2012 <複合趨向結構“V+過來/過去”的對稱與不對稱>《語言教學與研究》第 3 期 74-81
- 中國社會科學院語言研究所詞典編輯室 2016 《現代漢語詞典（第 7 版）》商務印書館
- 楊德峰 2017 《趨向補語的認知和習得研究》北京大學出版
- 劉月華 潘文娛 故韡 2019 《實用現代漢語語法（第三版）》商務印書館